

事前評価個表

整理番号	19
------	----

地域（地区）名	おおたがわ 太田川	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	広島県	対象市町村	広島市ほか4市町
事業実施期間	H31 ～ H35 （5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、広島県の西部に位置し、西は山口県、北は島根県と接しており、南は瀬戸内海に面している。地区の西部から北部にかけて、標高1,000m級の山々が連なり、東部には800m以上の山々が瀬戸内海に面して連なっており、中国山地の高峰冠山を源とする太田川が大小72の支流を集め広島湾に注いでいる。</p> <p>本地区の総面積254千haのうち、森林面積は195千ha（森林率77%）となっており、このうち民有林の森林面積は180千haであり、本地区の森林面積の92%を占めている。</p> <p>民有林における人工林の面積は71千ha（人工林率39%）で、スギが38%、ヒノキが45%を占めている。齢級構成はⅤ～Ⅷ齢級が76%と利用期を迎えており、安定的な木材生産への期待の高まりとともに伐採量の増加が見込まれる。</p> <p>また、本地区内の林道延長は1,084kmで、公道等を含む林内路網密度は17.7m/haとなっており、このほかに林道の支派線として森林作業道が整備されている。</p> <p>本地区内の民有林人工林のうち9千ha（人工林の13%）がⅧ齢級以下で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、森林所有者の高齢化や後継者不足により森林施業への意欲減退や、造林事業の担い手不足により、手入れが不十分な森林の増加や伐採後の更新が滞ることが懸念されている。</p> <p>このため、太田川地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、計画的に保育・間伐等の森林施業を推進するとともに、効率的な森林施業の実施のために路網整備が必要である。</p> <p>これらのことから、本事業では、水源涵養^{かん}や土砂流出防止等の森林の有する公益的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、人工造林や保育・間伐等の森林整備及び路網整備を実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：6,332 ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：1,992m 森林基幹道、林業専用道</p> <p>総事業費：2,962,120千円（税抜き2,742,704千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C = 4.25 （総便益（B）= 16,441,457千円、総費用（C）= 3,870,015千円）</p>
評価結果	<p>必要性：伐採量の増加が見込まれるとともに、保育が必要な森林も多く有している地区であり、効率的な森林施業のための路網整備及び適正な間伐等の実施が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：効率的な森林施業のための路網整備を行い、保育、間伐等の森林施業を実施し、安定的な木材生産だけでなく、森林の有する水源涵養、土砂流出防止等の公益的機能の高度な発揮を目的とする事業であり、有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 広島県

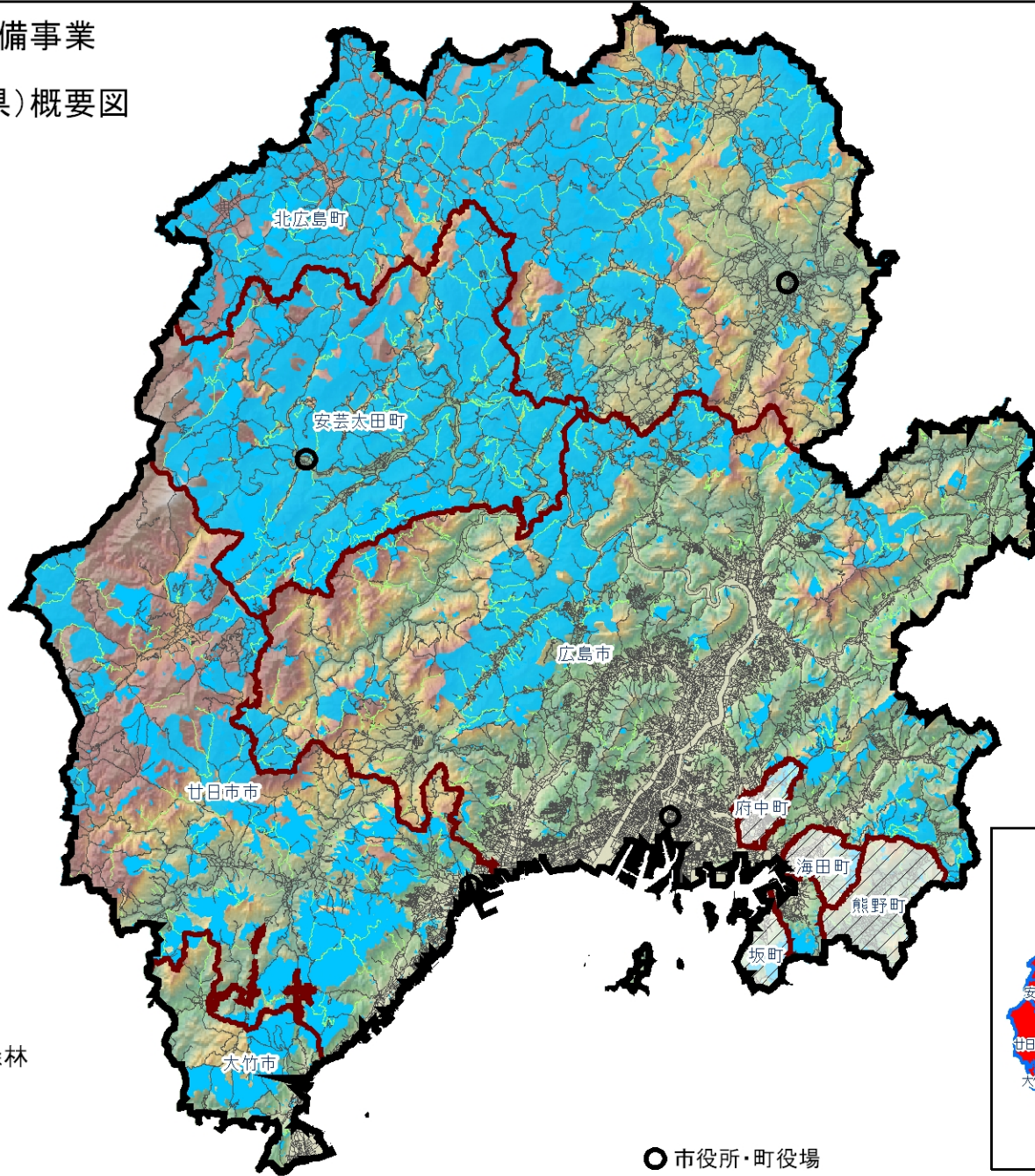
地域(地区)名: ^{おおたがわ}太田川

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,092,366	
	流域貯水便益	1,402,942	
	水質浄化便益	3,162,698	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,430,394	
環境保全便益	炭素固定便益	1,965,966	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	34,860	
	木材生産確保・増進便益	1,621,509	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	730,722	
総 便 益 (B)		16,441,457	
総 費 用 (C)		3,870,015	
費用便益比	$B \div C = \frac{16,441,457}{3,870,015} = 4.25$		

森林環境保全整備事業

太田川地域(広島県)概要図



凡例

-  計画区界
-  森林整備対象森林
-  事業区域外

○ 市役所・町役場

